

ママカフェでの幸せな出会いが教えてくれたこと

合田 京子（高松市社会教育委員
高松市子ども・子育て支援会議委員）

私は社会教育委員を務める傍ら、「レッツde ママカフェ」を運営しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2ヵ月お休みしていましたが、ようやく再開することができました。この日を心待ちにしてくれていたママ達の笑顔や元気いっぱいの子ども達を見ていると、ママカフェを続けてきて良かったなと改めて思います。



🍀 みんなが笑顔になれる場所 🍀

ママの笑顔をサポートできればとの思いで4年前にスタートしたママカフェは、子育て中のママの居場所として丸亀町レッツカルチャー室をお借りし、月2回のペースで開催しています。

スタッフは孫育て世代の数名です。日中、孤立しがちなママが少しでもリラックスしてもらえるような…実家のような場所になればと思っています。

「みんなと一緒に昼ご飯を食べることができてうれしい」「いっぱいおしゃべりができて楽しかった」そんなママ達の声が私達の励みになっています。

ママカフェでの子ども達は、大人達が見守る中で自由に遊んでいます。

手押し車にお人形を乗せ駆け回っている子。

外のアリを見つけてじっと見入っている子。

ちょっとシャイな子。人懐っこい子…etc. 時にはおもちゃや遊具を巡っての争奪戦も繰り広げられますが、その一生懸命さがとても微笑ましく、これもまた社会性を学んでいるのかも嬉しくなります。

終了時間が近づくと、みんなで声掛けをしながら片付けを始めます。1才児も2才児も自分でできることを見つけて手伝ってくれます。「ありがとう」「助かったよ」と伝え、どの子も自信たっぷり、誇らし気な表情を返してくれます。「人の役に立つ喜び」を実感しているのかもしれない。

ママカフェでの経験から、ゆったりとした気持ちで子どもを観察することで、子どもの新しい発見があったり、成長の後押しができる事に気付かされます。子どもが何かに集中しているその時に大人の温かな眼差しがあることで、よりその子の力になることと思います。皆さんも「ちょっとだけ」子どもと向き合う1対1の時間を作ってみませんか。

笑顔で帰っていくママと子ども達を見送った後、いつも私達の心の中はとても温かく満たされています。

ママと子ども達、そして私達スタッフ…ママカフェは、いつの間にか3世代の居場所になっているようです。